



「暮らし」支えるまち

A City That Supports Your Life

防災 生活安心・防犯 環境 交通 道路 上下水道

未来に向けた、持続可能なまちづくり

Sustainable Community Development for the Future



環状交差点「ラウンドアバウト」(南草津プリムタウン)

東日本大震災以降、自然災害に対する備えの重要性が高まっています。草津市では、市民の皆さんの生命と財産を守るために、防災備蓄品の整備のほか、河川や上下水道の災害対策などハード面の整備と合わせて、地域防災力の向上を図るソフト面での取り組みも進めています。

また、人口減少や少子高齢化が進行する将来においても、持続可能なまちであり続けるために、都市の基盤整備や公共交通の充実など、住みよいまちに向けた整備を進めています。

Since the Great East Japan Earthquake, preparedness for natural disasters has become all the more important. In order to protect the lives and property of its citizens, Kusatsu City has been promoting efforts to improve local disaster preparedness. These include tangible measures, such as maintaining emergency supply reserves and taking steps to prevent and lessen disaster damage for rivers, water, and sewage systems. They also include less tangible measures, like initiatives to increase community disaster readiness.

In addition, in order to remain a sustainable city even into the future amid a declining birthrate and an aging population, Kusatsu is promoting the development of urban infrastructure and public transportation systems, making the city an even more pleasant place to live.



災害に強いまちづくり

Building a Disaster-Resilient City



市総合防災訓練

「地元を災害から守ろう」と決心し、消防団に入団しました。「災害弱者の方に寄り添いながら、優しく手を差し伸べること」を大切に、訓練や啓発を行い、火災や風水害などの災害に備えています。仕事を持ちながらも、建物火災が発生すると迅速に現場に駆け付け、消火活動などを行います。早期に火災を消し止めて、大きな被害を防げた際は、団員として責任を果たしたと感じます。



草津市消防団
いづちひろお
団長 井口 裕夫さん



第69回日本消防協会定例表彰式で、草津市消防団が消防団最高の名誉である「特別表彰まとい」を受章

琵琶湖西岸断層帯地震や南海トラフ地震の被害を想定した防災アセスメント調査を行い、防災・減災対策の強化に取り組んでいます。平成27(2015)年に消防・防災機能の充実を図るため、湖南広域行政組合西消防署・市コミュニティ防災センターの新築移転を行いました。

また、自助・共助による地域防災力や災害対応能力の向上に努めながら、広域避難所となる小・中学校にマンホールトイレを整備するなど、災害時に市民の安全・安心を確保できる危機管理体制を備えたまちづくりに力を入れています。

安心な暮らしを守る防犯対策

Crime Prevention Measures to Keep You Safe



自転車安全安心利用指導員

市内の犯罪発生件数は、各関係機関や民間との協働の取り組みにより、ここ10年でみると半減していますが、さらに見守りを強化するために、自転車盗難が多い駐輪場への巡回・啓発や、小・中学校通学路や利用者が多い駅周辺を中心に街頭防犯カメラを設置するなど、犯罪を発生させないまちの環境づくりを進めています。また、一人ひとりが「自分の身は自分で守る」という防犯意識を持てるよう、啓発活動にも取り組んでいます。

広域連携による施設整備

市営火葬場の老朽化と、今後の火葬能力不足を解消するため、令和9年度の供用開始をめざし、栗東市との広域連携により、新たな施設の整備を進めています。



新しい火葬場(イメージ)



愛する地球のために挑む、ゼロカーボンシティ

Taking on the Challenge of Becoming a Zero Carbon City For Our Beloved Earth



市議会との共同宣言は西日本初

近年、世界各地で地球温暖化の影響による異常気象が相次いでいます。

草津市はこれまでも地域ぐるみで地球温暖化対策を進める「草津市地球冷やしたい推進協議会」でさまざまな取り組みを行ってきましたが、令和3(2021)年12月に市議会と共同で「草津市気候非常事態宣言」を行い、ゼロカーボンシティ[※]を表明し、脱炭素社会づくりに向けた新たな一歩を踏み出しました。

※脱炭素社会づくりに向けて、2050年までに二酸化炭素(CO₂)の排出量を実質ゼロをすることをめざすと公表した自治体のこと

脱炭素社会の実現に向けて

子どもたちが暮らす地球の未来を考え、市民、事業者・団体等と市が一体となり、共通の認識を持って地球温暖化対策に取り組んでいます。



市民

- ・グリーン購入(環境に優しい買い物)の心掛け
- ・環境にできるだけ負担をかけない暮らし など

事業者・団体等

- ・脱炭素経営の推進
- ・再生可能エネルギーや省エネ設備の導入 など

市

- ・愛する地球のために約束する草津市条例
- ・草津市地球冷やしたいプロジェクト
- ・ゴーヤカーテン普及など、地球温暖化対策の周知・啓発
- ・再生可能エネルギー(太陽光やごみ発電)の利活用
- ・公共施設照明LED化 など

草津市地球冷やしたい推進協議会

- ・市民、事業者・団体等と市の協働により、地球温暖化対策を推進



新クリーンセンター

平成30(2018)年に供用を開始した新クリーンセンターでは、高効率ごみ発電施設を導入するとともに、ごみの適正処理による省資源とリサイクルの取り組みを進めています。

平成19(2007)年に開催され、延べ2万4千人が来場した「地球温暖化防止フェア in びわこ・くさつ」をきっかけに、市民、事業者・団体等と市がそれぞれの枠組みを超えた協力体制のもと、地域ぐるみで地球温暖化対策を進めるための組織として設立しました。これからも、協働による取り組みを大切にしながら「愛する地球を、ミライへ」つなげられるまちになってほしいです。

草津市地球冷やしたい推進協議会
会長 小林 圭介さん



琵琶湖ネット草津は、平成14(2002)年の草津川放水路の完成に伴い、新草津川に植樹した557本の桜並木の維持管理を中心に活動しています。温暖化により植物の成長が早くなり、草刈りが夏季の高温の時期と重なる厳しい環境になりましたが、22年を経過した桜の木が大きく成長し、素晴らしい満開の桜を咲かせる姿に喜びを感じています。

(特非)琵琶湖ネット草津
理事 大脇 正美さん



市民の皆さんに「資源は有限、活用は無限」の認識を深めていただき、環境負荷を減らすライフスタイルの実現に向けた活動をしています。クリーンなまち草津となるよう啓発活動を進めており、活動ではごみ問題を自分事と捉え、啓発する前にまず自ら実践することを心掛けています。ごみ問題だけではなく、何事にも地域で連携して乗り越えられるように、人と人とのつながりを大事にするまちであってほしいです。

ごみ問題を考える
草津市民会議
会長 松村 幸子さん



まめバス



南草津駅周辺交通渋滞対策社会実験

歩いて暮らせるコンパクトなまちへ

Creating a More Compact City Where People Don't Need Cars



誰もが安心して移動ができるまちの実現に向け、路線バスが運行していない交通不便地を中心にコミュニティバス「まめバス」「くるっとバス」やデマンド型乗合タクシー「まめタク」を導入することにより、移動手段の確保に努めています。

また、JR南草津駅周辺の交通渋滞の緩和や公共交通の利用環境改善のため、令和2(2020)年と令和3(2021)年に社会実験を行いました。南草津エリアのまちづくりの拠点であるアーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)においても「都市と交通プロジェクト」として、産学公民それぞれが多様な知見を持ち寄り、魅力的なまちづくりについての検討を進めています。



Interview 草津市子ども環境会議 ～小学生のころから今もつながる思い～ 山本 賢樹さん

平成13(2001)年から始まった「草津市子ども環境会議」。子どもと大人が環境について議論し、環境活動に取り組む人たちが交流する場として、現在までに22回の開催を数えます。そんな同会議に参加していた山本賢樹さんに環境への思いを伺いました。

自然の中で育まれた環境への思い

山本さんが環境に興味を持ったきっかけは、子ども時代のこと。「家の近くで生物を捕まえて飼育したり、自然の中で遊ぶことがごく当たり前の生活でした」。

自然遊びが好きだったことから、小学生になると『子どもエコクラブ』、6年生には『草津市子ども環境会議』にパネリストとして参加。「参加者それぞれの活動内容を見聞きし、同じ市内なのに、知らないことがたくさん



▲草津市子ども環境会議

あり、さまざまな環境活動が行われていることに驚きました」。大学時代にはパネラーOBやコーディネーターとして参加し、子どもたちの活動をサポートしてきました。

自分が暮らす地域の 自然に触れてみてください

Profile

私立中学・高等学校の理科教諭。大学で環境教育を専攻し、琵琶湖の生物について学ぶ。現在も地域で自然観察を続けている。



「Think Globally, Act Locally」

現在も休日には県内のエコクラブで活動する山本さん。「草津市も都市化していますが、市役所のすぐ近くを流れる新草津川などにはアユが遡上しています。

『Think Globally, Act Locally』という言葉があります。「地球規模で考えて、地域から行動しよう」という意味です。さまざまな環境問題がありますが、まずは、地域の自然を大切にしたいと思います」。



▲エコクラブで活動する山本さん